

第 16 回ビジネス会計検定試験より抜粋

(平成 27 年 3 月 8 日施行)

同業種の A 社と B 社に関する<資料 1>から<資料 4>により、【問 1】から【問 10】の設問に答えなさい。分析にあたって、貸借対照表数値、発行済株式数および株価は期末の数値を用いることとし、純資産を自己資本とみなす。金額単位は明記したものを除き百万円であり、△はマイナスを意味する。

<資料 1> 貸借対照表

	A 社	B 社
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	700	2,000
受取手形	2,400	3,300
売掛金	4,500	4,800
有価証券	400	600
製品	5,100	6,500
その他	1,500	2,600
流動資産合計	14,600	19,800
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,800	4,000
機械装置	4,300	5,000
土地	3,500	2,900
その他	200	400
有形固定資産合計	10,800	12,300
無形固定資産	600	900
投資その他の資産	4,000	12,000
固定資産合計	15,400	25,200
資産合計	30,000	45,000

	A社	B社
負債の部		
流動負債		
支払手形	2,400	2,300
買掛金	2,800	3,400
短期借入金	4,000	4,100
未払法人税等	600	700
預り金	500	600
その他	1,700	3,400
流動負債合計	12,000	14,500
固定負債		
社債	3,000	5,600
長期借入金	2,400	2,600
退職給付引当金	1,000	900
その他	300	1,400
固定負債合計	6,700	10,500
負債合計	18,700	25,000
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,200	5,200
資本剰余金	1,400	1,800
利益剰余金	6,200	10,000
自己株式	△400	△500
株主資本合計	10,400	16,500
評価・換算差額等	900	3,500
純資産合計	11,300	20,000
負債純資産合計	30,000	45,000

<資料2> 損益計算書

	A社	B社
売上高	34,000	36,000
売上原価	28,000	27,000
売上総利益	6,000	9,000
販売費及び一般管理費	3,800	5,900
営業利益	2,200	3,100
営業外収益	500	900
営業外費用	300	400
経常利益	2,400	3,600
特別利益	100	600
特別損失	400	200
税引前当期純利益	2,100	4,000
法人税、住民税及び事業税	840	1,600
法人税等調整額	△40	300
法人税等合計	800	1,900
当期純利益	1,300	2,100

<資料3> キャッシュ・フロー計算書

	A社	B社
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,000	3,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,600	△2,900
財務活動によるキャッシュ・フロー	800	600
現金及び現金同等物の増減額	200	700
現金及び現金同等物の期首残高	500	1,300
現金及び現金同等物の期末残高	700	2,000

<資料4> その他のデータ

	A社	B社
1株株価(円)	1,000	800
発行済株式数(百万株)	18	32

【問1】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 貸借対照表構成比率により、多様な企業の財政状態を比較することができる。
(イ) 固定資産の貸借対照表構成比率は、A社の方が高い。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問2】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) A社が売上原価をあと 2,000 削減していれば、A社の売上高売上総利益率はB社より良くなっていた。
(イ) 売上高販売費及び一般管理費率は、A社の方が良い。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問3】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 不良在庫が多額にあると、流動比率は低いのに当座比率は高いという状況になる。
(イ) 当座比率からみると、A社の方が安全性が高い。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問4】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 自己資本比率が高ければ、弁済を要しない資金源泉の割合が高い。
(イ) 自己資本比率からみると、A社の方が財政状態が安定している。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問5】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 投資活動によるキャッシュ・フローの金額は、プラスになることはない。
(イ) フリー・キャッシュ・フローは、A社の方が大きい。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問6から問8共通】 次の文章について、【問6】から【問8】の設問に答えなさい。

総資本経常利益率は、(ア)に対する収益性を判断するための指標であり、両社を比較すると(イ)。

さらに詳細に分析するために、総資本経常利益率を売上高経常利益率と(ウ)に分解してみると、売上高経常利益率は(エ)。(ウ)は、(ア)が(オ)を生み出す効率を判断する指標であり、(カ)。

【問6】 空欄(ア)と(イ)に該当する語句の適切な組み合わせを選びなさい。

- ① (ア) 株主の出資 (イ) A社の方が高い
- ② (ア) 株主の出資 (イ) B社の方が高い
- ③ (ア) 株主の出資 (イ) 両社同じである
- ④ (ア) 投下資本総額 (イ) A社の方が高い
- ⑤ (ア) 投下資本総額 (イ) 両社同じである

【問7】 空欄(ウ)と(エ)に該当する語句の適切な組み合わせを選びなさい。

- ① (ウ) 総資本回転率 (エ) A社の方が高い
- ② (ウ) 総資本回転率 (エ) B社の方が高い
- ③ (ウ) 総資本回転率 (エ) 両社同じである
- ④ (ウ) 財務レバレッジ (エ) A社の方が高い
- ⑤ (ウ) 財務レバレッジ (エ) B社の方が高い

【問8】 空欄(オ)と(カ)に該当する語句の適切な組み合わせを選びなさい。

- ① (オ) 売上高 (カ) A社の方が高い
- ② (オ) 売上高 (カ) B社の方が高い
- ③ (オ) 経常利益 (カ) B社の方が高い
- ④ (オ) 当期純利益 (カ) A社の方が高い
- ⑤ (オ) 当期純利益 (カ) B社の方が高い

【問9】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 財務レバレッジを高めるには、総資本に対する自己資本の割合を増やせばよい。
(イ) 財務レバレッジは、A社の方が高い。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

【問10】 次の文章について、正誤の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(ア) 株価純資産倍率は、1倍を下回ることもある。
(イ) 株価純資産倍率は、A社の方が高い。

- ① (ア) 正 (イ) 正
- ② (ア) 正 (イ) 誤
- ③ (ア) 誤 (イ) 正
- ④ (ア) 誤 (イ) 誤

《解答・解説》

【問1】 ②

(イ) 固定資産の貸借対照表構成比率

$$A社 : 51.3(\%) = \frac{\text{固定資産 } 15,400}{\text{資産合計 } 30,000} \times 100 \quad B社 : 56.0(\%) = \frac{\text{固定資産 } 25,200}{\text{資産合計 } 45,000} \times 100$$

【問2】 ③

(ア) 売上高売上総利益率

・ A社

売上原価があと 2,000 少ないとした場合の売上総利益 8,000
= 売上高 34,000 - 売上原価 26,000 (= 28,000 - 2,000)

$$\text{売上高売上総利益率 } 23.5(\%) = \frac{\text{売上総利益 } 8,000}{\text{売上高 } 34,000} \times 100$$

$$\cdot B社の売上高売上総利益率 25.0(\%) = \frac{\text{売上総利益 } 9,000}{\text{売上高 } 36,000} \times 100$$

(イ) 売上高販売費及び一般管理費率

$$A社 : 11.2(\%) = \frac{\text{販管費 } 3,800}{\text{売上高 } 34,000} \times 100 \quad B社 : 16.4(\%) = \frac{\text{販管費 } 5,900}{\text{売上高 } 36,000} \times 100$$

売上高販売費及び一般管理費率は、低い方が良いです。

【問3】 ④

(ア) 不良在庫が多額にあると、流動比率は高いのに当座比率は低いという状況になります。

(イ) A社

当座資産 9,500 = 流動資産 14,600 - 棚卸資産 5,100

$$\text{当座比率 } 79.2(\%) = \frac{\text{当座資産 } 9,500}{\text{流動負債 } 12,000} \times 100$$

B社

当座資産 13,300 = 流動資産 19,800 - 棚卸資産 6,500

$$\text{当座比率 } 91.7(\%) = \frac{\text{当座資産 } 13,300}{\text{流動負債 } 14,500} \times 100$$

【問4】 ②

(イ) 自己資本比率

$$A社 : 37.7(\%) = \frac{\text{自己資本 (純資産) } 11,300}{\text{負債純資産合計 } 30,000} \times 100$$

$$B社 : 44.4(\%) = \frac{\text{自己資本 (純資産) } 20,000}{\text{負債純資産合計 } 45,000} \times 100$$

自己資本比率が高い方が、長期的な財務安定性が高いと判断できます。

【問5】 ④

(ア) 保有している土地や有価証券を売却した場合は、投資活動によるキャッシュ・フローの金額は、プラスになることもあります。

(イ) フリー・キャッシュ・フロー

$$A社：\Delta 600 = \text{営業活動によるキャッシュ・フロー} 2,000 \\ + \text{投資活動によるキャッシュ・フロー} \Delta 2,600$$

$$B社：100 = \text{営業活動によるキャッシュ・フロー} 3,000 \\ + \text{投資活動によるキャッシュ・フロー} \Delta 2,900$$

【問6】 ⑤

(イ) 総資本経常利益率

$$A社：8.0(\%) = \frac{\text{経常利益 } 2,400}{\text{負債純資産合計 } 30,000} \times 100$$

$$B社：8.0(\%) = \frac{\text{経常利益 } 3,600}{\text{負債純資産合計 } 45,000} \times 100$$

【問7】 ②

(エ) 売上高経常利益率

$$A社：7.1(\%) = \frac{\text{経常利益 } 2,400}{\text{売上高 } 34,000} \times 100 \quad B社：10.0(\%) = \frac{\text{経常利益 } 3,600}{\text{売上高 } 36,000} \times 100$$

【問8】 ①

(カ) 総資本回転率

$$A社：1.13(\text{回}) = \frac{\text{売上高 } 34,000}{\text{総資本 } 30,000} \quad B社：0.8(\text{回}) = \frac{\text{売上高 } 36,000}{\text{総資本 } 45,000}$$

【問9】 ③

(ア) 総資本に対する他人資本の割合を増やすと、財務レバレッジが高くなります。

(イ) 財務レバレッジ

$$A社：265.5(\%) = \frac{\text{総資本 } 30,000}{\text{自己資本 } 11,300} \times 100 \quad B社：225.0(\%) = \frac{\text{総資本 } 45,000}{\text{自己資本 } 20,000} \times 100$$

【問10】 ①

(イ) A社

$$1 \text{ 株当たり純資産 } 627.8(\text{円}) = \frac{\text{純資産 } 11,300}{\text{発行済株式数 } 18}$$

$$\text{株価純資産倍率 } 1.6(\text{倍}) = \frac{1 \text{ 株株価 } 1,000}{1 \text{ 株当たり純資産 } 627.8}$$

B社

$$1 \text{ 株当たり純資産 } 625(\text{円}) = \frac{\text{純資産 } 20,000}{\text{発行済株式数 } 32}$$

$$\text{株価純資産倍率 } 1.3(\text{倍}) = \frac{1 \text{ 株株価 } 800}{1 \text{ 株当たり純資産 } 625}$$